

平成 30 年度 第 3 回学校関係者評価委員会 報告

日時 平成 31 年 2 月 15 日(金) 15:40～16:30

I 校内見学 (15:00～) 【場所: 体育館, 各教室】

II 委員会 (15:40～) 【場所: 会議室】

- 1 開会のことば
- 2 校長あいさつ
- 3 現況報告
 - (1) 教務部から
 - (2) 生徒指導部から
 - (3) 進路指導部から
 - (4) 学校評価アンケート結果について
- 4 意見交換
- 5 閉会のことば

III 意見交換内容

○ A 委員

- ・ 学校は頑張っているのがうかがわれ、アンケート結果等も良いのに、生徒募集状況が良くないのはなぜか? このことについても、町全体の問題だと思っている。(平成 18 年の豪雨災害時に、紛失した教科書等について調べたところ、虎居地区に 20 校の高校の生徒がいたことが分かった。当時から多くの高校に生徒が分散している傾向にあるのではないかと思われる。)
(校長) 出願状況が県下最下位なのをしっかりと受け止めてこれから V 字復活していきたい。

○ B 委員

- ・ 教師のアンケート評価が低いのは危機感の表れであると思う。校則について、生徒や保護者のアンケートが高いのに教師が低いのはどうしてかを考えてほしい。生徒は校則が厳しいと答え、保護者は緩すぎるとなっている。職員は「ガチガチに厳しくするのではなく、伸び伸びと学べる学校の雰囲気を大切にしていくと良い方向に向かうと思う。」と述べている。生徒と保護者、教師の感じ方が違うのではなかと思う。

○ C 委員

- ・ 思春期にある生徒は校則が厳しいと思いがちである。
- ・ 先生方は、県内の公立高校の転勤に伴って、今までの学校と比べているのではないだろうか。目の前の生徒を導くことが必要である。何が大切かを教えていただきたい。
- ・ 授業も良い雰囲気で行っている者と流されている者がいる感じがかった。職場体験学習の期間に、近くの公園で楽しそうにサッカーをしている生徒がいた。それはよいのだが、翌日、ペットボトルが散乱していた。何をもって良いこととなるか、遊びと学習のメリハリやマナーなどを教えてほしい。
- ・ 出願状況はショックだが、ピンチをチャンスに変えてほしい。さつま町 P T A 研究大会の研究発表のように、地域の中に D V D 等を介して広報に取り組んでほしい。

○ D委員

- ・ 生徒は授業に一生懸命に良く取り組んでいた。
- ・ 出願状況はショックである。理由等を考えてもらいたい。
- ・ 高校に子供が在学している保護者は本校が良いと思っているが、在学中でない保護者は、前回、C委員から出されたように川内高校と本校の中間の普通科高校がほしいと思っている。このことにどのように対応していくか。
- ・ 鶴翔高校と本校は同時に開校した。本年度は、センター試験に取り組んだ受験者が鶴翔高は 11 人であるのに薩摩中央高は 6 人と差がある。高い目標をもって保護者が求めている進学指導をしてほしい。そして、学校の取組をもっと地域に紹介してほしい。進学指導の取組としては、上級学校の説明会に国公立大等と呼ぶことなども行ってほしい。

○ E委員

- ・ P T Aでもいろいろとアピールをした。入学したら良さが分かるが、入学してくれない。
- ・ 出願率最低はショックである。本校の良さを紹介していきたい。自分の子供も薩摩中央高で良い指導を受けていると思う。

○ B委員

- ・ 入学者の保護者の満足度は高いことを伝えたい。

○ D委員

- ・ なぜ他校に進学するのか。中学校の立場ではどう思うか。

○ B委員

- ・ 生徒数が少ない状況にあり、この川薩地区は激戦区である。町内から町外へ、町外から町内への動きがある。
- ・ 能力的に高くない生徒も薩摩中央高に進学している状況にある。高校は大変だと思う。
- ・ 薩摩中央高に工業系学科があれば、川内商工高ではなく、薩摩中央高に進学させたいという保護者もいる。

○ C委員

- ・ 普通科で将来を考えている生徒は、少人数が良いと思っている者は薩摩中央高へ進学するが、川内高校のように大人数の方を選ぶ傾向にある。

○ A委員

- ・ 学校評価アンケートは他校との比較も参考になるのでは？
(教頭) 各学校が同じ項目でアンケートしているわけではないので、項目間の比較は難しい。ただし、それぞれの学校のホームページで見ることができるので参考にしたい。